

平成28年度	①区民まつり等イベントでの28年度重点テーマ普及事業	①20 か所	①イベントでは、白熱電球とLED電球の消費電力の比較、太陽光発電やペアガラスの展示、説明。また、超小型電気自動車「チョイモビ」の試乗も行い、低炭素交通の普及に努めたほか、廃食油の回収、廃食油を使用したキャンドル作りを実施。
	②風力発電・エネルギー関連施設及び道志村見学会の実施	②4回	②風力発電所「ハマウィング」や燃料電池自動車の試乗、スマートウェルネス体感パビリオン、道志村の間伐体験など見学会の実施。
	③学習会の実施	③10回、 約360名	③IPCCレポートコミュニケーター資料を基に温暖化の現状と予測や、横浜市の温暖化対策の取組、家庭で出来る省エネについて説明した。さらに今後、温暖化があたえる影響から適応策の必要性について周知。
	④台所油田プロジェクト実施	④13か所、 2,735.2L	④区民まつり等イベント時廃食油の回収による二酸化炭素のカーボンオフセット、自治会、町内会の連携による定期的な廃食油の回収を実施。 ※別紙補足資料 平成28年度事業報告 参考

3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
自治会・町内会との関わり	台所油田プロジェクトの取組の一環として、港南区の自治会・町内会において廃食油の回収実施。	港南区と連携して、「こうなん子どもゆめワールド」において、会場から排出される二酸化炭素を、廃食油を回収してカーボンオフセットする事業を実施。こうなん子どもゆめワールド実行委員会参加の自治会・町内会において、恒常的な廃食油の回収が開始され、29年11月現在15か所の自治会にて回収が実施されている。さらに3自治会にて30年1月から回収が実施される予定。また、回収を実施している自治会においては、年に1回「報告・温暖化の現状、家庭で出来る省エネ」の講座を実施している。更に戸塚区で1か所、栄区では栄区役所と連携して自治会への説明会を開催した。
学校との関わり	①総会における大学生の活動報告の実施 ②「大学・企業・団体課題解決マッチング会」開催 12月16日 東京都市大学にて実施	①これまでも協議会の総会において、各大学の大学生から環境活動報告をの報告をしていただいていた。また横浜市内の大学生で構成する、RCF横浜若者連盟とも情報の共有を図る等連携を実施。 ②29年度事業として、横浜市内の大学生に呼びかけて、「大学・企業・団体課題解決マッチング会」を開催。東京都市大学から2チーム、横浜国大から4チームの参加があり、企業が実施する環境事業の課題に大学生として、解決の提案が実施される。(記者発表予定)

<p>他の市民 団体との 関わり</p>	<p>①開港祭における 市民団体との連携。</p> <p>②学習会における各区で 活躍する市民団体との連 携</p> <p>③見学会における連携</p>	<p>①青年会議所が開催する開港祭において、環境体験コーナーのとりまとめを依頼され、市内で活躍する各分野の8団体と連携して、体験型のコーナーを開設。</p> <p>②区役所と連携して、各区で開催する学習会において、事例報告等を実施して頂いている。資源循環公社と3月の親子見学会で、風力発電と鶴見ゴミ焼却工場を見学。</p> <p>③風力発電所「ハマウイング」や燃料電池自動車の試乗などの見学会を実施。広報よこはまで参加者を募集し、幅広い年齢層から、定員を上回る応募があり、市民の関心も高く好評である。</p>
<p>企業等と の関わり</p>	<p>①風力発電見学会にお ける連携</p> <p>②学習会における連携</p> <p>③区民まつり等のイベント における連携</p> <p>④「横浜発！太陽光発電 普及キャンペーン 2020」 の実施</p> <p>⑤「大学・企業・団体課題 解決マッチング会」開催</p>	<p>風力発電見学会実施時には、東京電力㈱や東京ガスと連携して、発電所の見学会を実施。その時の調整は、幹事でもある両者に全てコーディネートを担当している。</p> <p>②各区役所と連携して実施する学習会においては、大川印刷様、太陽光発電メーカー等に講師をお願いしている。また、日産自動車様には講師及び、車の試乗体験を実施して頂いている。</p> <p>③区民まつりには、会員の太陽光発電事業者7社に協力を頂き、会場にて展示・説明を担当している。</p> <p>④横浜市のエネルギーアクションプランの実践に向けて、会員の太陽光発電設置企業5社・メーカー1社、ノジマ㈱と連携して太陽光発電の普及と省エネ家電の普及実施中。</p> <p>⑤「大学・企業・団体課題解決マッチング会においては、日産自動車、大川印刷、石井造園、信愛エナジー、ソーラーフロンティアの5社から課題の提案を頂き、その課題に学生が提案するために、現在学生が企業を訪問中。協議会は主催者として、調整を担当している。</p>
<p>行政との 関わり</p>	<p>毎年、横浜市と協定(脱 温暖化行動啓発事業に 係る実施協定書)を締結 し事業を実施。(H28 横浜 市温暖化対策統括本部 脱温暖化行動啓発事業 負担金 130 万円)</p>	<p>(活動内容が行政の補助事業である場合は、補助金交付の部署名と補助金の名称を記載してください)</p> <p>横浜市との協定を締結し、区役所が開催するイベント等に参加し、LED等による節電・省エネ、太陽光発電、住宅のエコ化等の普及啓発を実施。そのほか、学習会等の開催をはじめ、風力発電とエネルギー関連施設等の見学会、道志村の間伐体験等、行政と連携し、市内全域を対象に幅広く啓発活動を行っている。</p>
<p>その他、 環境以外 の分野と の関わり</p>	<p>防災関係の団体、水源保 全の団体や水道局との連 携</p>	<p>①学習会では、自然保護団体や災害対策に取り組む団体と連携。昨年は、青葉区と戸塚区で神奈川新聞の減災新聞を担当している渡辺記者から基調講演をいただく。</p> <p>今年は、横浜の国際展示場で開催の防災展に渡辺記者を紹介した。</p> <p>②道志村間伐・散策体験会では、水道局様のお力添えを頂き、2000年に水道局が各区の市民と連携して植林した水源林を見学コースにいらして、水道局様にご案内頂いた。</p>

4 団体の発足経緯／活動を始めたきっかけ、動機

※ 立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

※ 個人の方は、活動を始めたきっかけについて記入してください。

平成 15 年に横浜市が、環境省の法律にのっとり横浜市地球温暖化対策推進協議会を発足、当初は審議会的な役割であり、横浜市が事務局を担っていた。平成 18 年に温暖化対策の実行が必要であるとして会則も作り、行動・実践する協議会に改定した。ソーラーグッズを横浜市から借りて自然エネルギー普及、また、独立型太陽光発電パネルを希望校に貸して、生徒に活用提案をしてもらい、協議会と横浜市はそのアドバイスの授業に学校にお伺いした。

その後、平成 21 年に事務局が横浜市から特定非営利活動法人ソフトエネルギープロジェクトに移管され、実行部隊として、省エネプロジェクト、風力発電プロジェクト、道志村プロジェクト、学習会プロジェクト、台所油田プロジェクト、太陽光発電普及プロジェクトを発足。

プロジェクトメンバーは会員個人、企業、団体、大学の先生等多様な個人・組織が参加している。

5 今までの活動

活動の目標・ねらいに対する成果

※自己評価や活動を引き継いだメンバーが改善したこと等を具体的に記入してください。

①プロジェクト制にして多様な組織・個人が参加している。

②会員企業との連携に力を入れている。環境産業の支援。

③大学・大学生との連携のさらなる発展を目指す。

④地域で活動する団体との連携をさらに強める。

★最初はなかなか広げた活動ができなかったが、今は多様な組織のコーディネートの役割を担いつつある。

この取り組みはさらに広がる事と思われる。

6 今後の活動方針

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

普及啓発事業と、市民参加型の具体的二酸化炭素の削減の 2 本柱の取組を強化したい。

①普及啓発事業は、イベント等事業への参加拡大、さらに、多様な市民団体や企業との連携拡大を予定している。区民まつり等イベントでの普及啓発や見学会などの事業を継続的に実施する。

②市民参加型の具体的二酸化炭素の削減

・回収した廃食油を横浜市内で具体的に活用する方法の検討。

・平成 29 年度からの事業である「横浜発！太陽光発電普及キャンペーン 2020」の継続的实施と
当事業により設置した太陽光発電自家消費分について、Jクレジットへの登録申請による、二酸化炭素削減の見える化。

7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

※最も注目してもらいたい／評価してもらいたい取組や、これまでの項目に当てはまらないPRポイントについて具体的に記入してください。

■2050年には二酸化炭素の排出をゼロにする必要があり、徹底した省エネと自然エネルギーの設置は両輪である。

平成29年度8月から開始した新事業として、「横浜発！太陽光発電普及キャンペーン2020」を大規模展開。当協議会の会員企業、省エネ家電量販店と連携し、再生可能エネルギーである太陽光発電の普及促進を目的に事業を実施。今年度は100件の太陽光発電設置を目標とし、150tの二酸化炭素の削減を目指している。

(植林換算10800本)

本事業は、太陽光発電設置者には省エネ家電エコポイントを提供し、エコポイントは省エネ家電購入に利用できる仕組みとし、太陽光発電設置に加え、二酸化炭素の削減を図るものである。

本事業は3年間展開予定であり、太陽光発電の発電量による二酸化炭素削減量を国のJ-クレジットに登録し、大規模イベントへのカーボンオフセットへの活用を検討している。

事業開始から現時点(12月1日)の実績値としては、5件の太陽光発電が設置され、約20件の申請相談がある。さらに、新聞社等マスメディアからの取材もあり、今後も申請件数増加が期待できる。

○事業は横浜市と共催であり、FMよこはまの放送やチラシの配布など、広くPRすることで、市民の温暖化対策における意識向上にもつながった。

本事業は、太陽光発電関連事業者や一般家庭、他分野企業、大学等との連携によりさらに拡大していく予定。本事業はオリンピックの年の2020年まで続け、具体的二酸化炭素の削減を実践したい。

横浜発！ 太陽光発電普及 キャンペーン 2020

太陽光発電は二酸化炭素を出さないエネルギーです。
地球の未来のために、
太陽光発電で創ったエネルギーを増やしましょう。

©Hideo MORI

2017年度は100件の設置、150t/^{※注1}年の二酸化炭素の削減を目指します。

COOL
CHOICE

設置してくださる方を募集しています！

2017年8月1日～2018年2月28日

(2020年までの継続を目指します。)

2020年(オリンピック年)を見すえて、個人住宅等に太陽光発電の設置を推進します。

このキャンペーンでは、設置した各家庭等の発電量を把握させていただき、

CO2削減量の総量を推進協議会のHP等で公表します。

また、自家消費分は国が推進するJ-クレジット^{※注2}に登録し、

参加された皆様のCO2削減量の総量をJ-クレジット制度HPで公表することを目指しています。

発電量・自家消費量等の情報の提供にご協力をお願いします。

設置してくださった方には、「よこはま省エネ家電エコポイント」を差し上げます。

※詳しくは、4ページをご覧ください。



※注2：J-クレジット制度を活用した取組について

- ・ J-クレジットとは、省エネルギー機器の導入(太陽光発電)などの取組による、CO₂などの温室効果ガスの排出削減量をクレジットとして国が認証する制度です。
- ・ 本事業は、J-クレジットの認証を目指すとともに推進協議会がこれを必要とする企業への売却を検討します。
- ・ 売却益が発生した場合は、推進協議会の地球温暖化対策推進費として活用させていただきます。各家庭への金銭の還元はございませんので、ご了承をお願い致します。
- ・ 本事業を通じて得られた個人情報、本事業の実施のためだけに使用します。
- ・ J-クレジットの登録は、推進協議会でを行う予定です。

横浜市及び推進協議会は、太陽光発電の設置・工事等については、一切の責任を負いません。

主催：横浜市地球温暖化対策推進協議会・横浜市

お問い合わせ：横浜市地球温暖化対策推進協議会(以下推進協議会とする。)

TEL.045-681-9910 FAX.045-681-3934 Eメール:yokohama@ontaikeyo.org

HP：<http://www3.hp-ez.com/hp/np02017>

使わないともったいない太陽のエネルギー

地球に到達する太陽光のエネルギー量は、1m²あたり約1kW。

もしも、地球全体に降り注ぐ太陽エネルギーを100%変換できたら

世界全体の年間消費量をわずか1時間で賄う事ができます。でも、活用されているのはわずかです。



太陽光発電のメリット

- ・ 二酸化炭素を排出しないので地球温暖化対策に役立ちます。
- ・ 再生可能エネルギーの中でも、太陽光発電が最も身近です。
- ・ 自宅で発電して、エネルギーの地産地消につなげていけるとともに、電気代を減らすことが可能です。
- ・ 災害等で停電した時、自宅で発電できたら安心です。
災害が起きて停電になっても、パワーコンディショナーで自立運転にスイッチを切り替えれば、天気の良い昼間には、最大1,500Wを非常用電源として利用することが可能です。
(例：携帯電話の充電、照明 など)
- ・ 電力需要の増える昼間のピークカットに貢献できます。



太陽光発電のデメリット

- ・ 雨の日や夜は発電しません。(蓄電池があれば、夜間や雨の日も使えて便利です。)
- ・ パネル工事など設置に費用がかかります。



太陽光発電システムと併せて蓄電システムを導入する場合、補助金を受けることができます。

神奈川県蓄電システム導入補助金
神奈川県は前期100件程度(終了)、後期50件程度
(10月2日受付開始)

※) 注1 「CO₂算出方法」(表紙)

$3\text{kW}^{*1} \times 1000\text{h}^{*2} \times 100\text{件} \times 0.5\text{kg-CO}_2/\text{kWh}^{*3} = 150\text{t}$

※1 3kW: 一般的に設置される太陽光発電システム容量

※2 1000h: 1年間の想定日照量

※3 0.5kg-CO₂/kWh: 2015年度東京電力エナジーパートナー(株)のCO₂排出係数(電気の発電の際に燃料の燃焼に伴って排出されたCO₂の量を供給した電力量を除いて算出)

ルギー。災害時にも役立ちます！



太陽光発電設置に関して、よくいただく質問にお答えします。

Q 太陽光発電はどのくらい発電しますか？

A. 日本では、太陽光発電の平均的な発電量は、システム容量1kWあたり年間約1,000kWhとされています。

Q 余った電気は売れるのですか？

A. 昼間発電していてあまり電気を使わなければ、余った電気は電力会社に売ることができます。2017年度に設置した場合、28円/kWhが売電価格です。(10kWh未満の場合、10年間固定) 足りない分や雨の日、夜は電力会社から電気を買います(1ヶ月120kWh~300kWhまで1kWh26円)。

Q 設置業者に不安があるのですが…？

A. 施工実績やメーカー等発行の施工者IDを持っているか確認する事が大事です。

Q 保証は？

A. 設置の前にパネルの保証、メンテナンス契約について確認しましょう。メーカーでは、モジュール出力保証20年前後、機器保証15年前後が一般的ですが、メーカーによって保証期間等が異なるので、詳しくは設置工事業者にお確かめ下さい。

Q 一般家庭では、どのくらい発電量のある太陽光発電を設置すれば良いですか？

A. システム容量が3~4kW程度の設置をするのが一般的です。1世帯の1ヶ月の平均電気使用量286.3kWの場合、年間約3,400kWhの電気使用量となります(電気事業連合会調べ)。一般的な家庭では、3~4kWの太陽光発電をすれば、3,000~4,000kWhの発電量が見込め、ほぼ賅えます(ただし、各家庭によって電気使用量は異なります)。

一年間使用すると、電力量料金は太陽光発電の電気だけで、ほぼ賅えます。基本料金の支払いはありません。省エネすれば、その分電気代が減り、売電が増えます。

Q 停電しても使えますか？

A. 太陽光発電の運転モードに切り替えれば、晴天時使用できます(太陽光発電のメリット参照)。

Q 重さはどのくらいですか？

A. システム容量3kW設置の場合は300kgです。(大人60kgの人が5人程度)

横浜市地球温暖化対策推進協議会では
「横浜発！太陽光発電普及キャンペーン2020」で
太陽光発電を設置された家庭等に

「よこはま省エネ家電エコポイント」を
差し上げます。(一律 8,000 円)



■ 参加の条件 (次の条件すべてをみたしていること)

- ・横浜市内に住所を有し、電力会社と電力契約を結び、電力受給契約申込書に電力会社の接続契約承認日が記載されている写しがあること。
- ・太陽光発電を本事業参加事業者(下記参照)から購入していること。
- ・対象パネルは、JET(一般財団法人電気安全環境研究所)に登録している太陽光発電メーカーの新品を購入していること。
- ・発電量・自家消費量等の提供とJ-クレジット登録に関するモニタリングへの協力が可能であること。
(毎年年度末とJ-クレジット申請時に発電量・自家消費量を把握させていただきます。)

◇対象 お申込み期間内に太陽光発電を設置した家庭・自治会・町内会、企業等。

◇よこはま省エネ家電エコポイント発行 太陽光発電システム設置1件につき8,000円券1枚(おつりは出ません)。

★ポイントで購入できる省エネ家電:

- ・LED照明(LED電球、LED直管、LEDシーリングライト)、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、テレビ、炊飯器、電子レンジ及び温水洗浄便座(ただし株式会社ノジマ指定(☆4つ以上)の省エネ家電に限ります。)
- ・よこはま省エネ家電エコポイントを活用して、上記省エネ家電を購入した場合、古い照明(LED電球、LED直管、LEDシーリングライト、白熱電球、蛍光管、照明等)、炊飯器、電子レンジ、及び温水洗浄便座を販売個数分を無料で引き取ります。

■ お申し込み

◇お申し込み期間 2017年8月1日～2018年2月28日(2017年度分)

◇必要書類 よこはま省エネ家電エコポイント発行申込書、横浜市内に住所を有し、電力会社と電力契約を結び、電力受給契約申込書に電力会社の接続契約承認日が記載されている写し。

◇お申込み・お渡し方法 太陽光発電設置事業者経由で必要書類を推進協議会宛に提出して下さい。

毎月月末締め、翌月10日をめどに設置した太陽光発電事業者からお渡します。

◇よこはま省エネ家電エコポイント取扱店 **株式会社ノジマ**

※横浜市内の店舗に限ります。店舗名は「よこはま省エネ家電エコポイント」裏面に書いてあります。

横浜発！太陽光発電普及キャンペーン2020

設置ご希望の方は、参加設置工事事業者が推進協議会にご連絡下さい。ただし、工事費用等については参加事業者にご確認ください。

●参加事業者: 日天株式会社	TEL 045-476-0811	FAX 045-476-0812
株式会社ロフトシステムズ	TEL 045-317-6210	FAX 045-410-4031
株式会社横浜環境デザイン	TEL 045-534-6468	FAX 045-534-6467
株式会社太陽住建	TEL 045-325-7133	FAX 045-325-7135
株式会社スカイテック	TEL 045-933-2721	FAX 045-933-2722
ソーラーフロンティア株式会社(メーカー)		(以上 推進協議会会員)

●よこはま省エネ家電エコポイント取扱店: 株式会社ノジマ



主催: 横浜市地球温暖化対策推進協議会

神奈川県横浜市中区真砂町4-43 木下商事ビル4F
TEL.045-681-9910 FAX.045-681-3934 Eメール: yokohama@ontaikyo.org
HP: http://www3.hp-ez.com/hp/npo2017



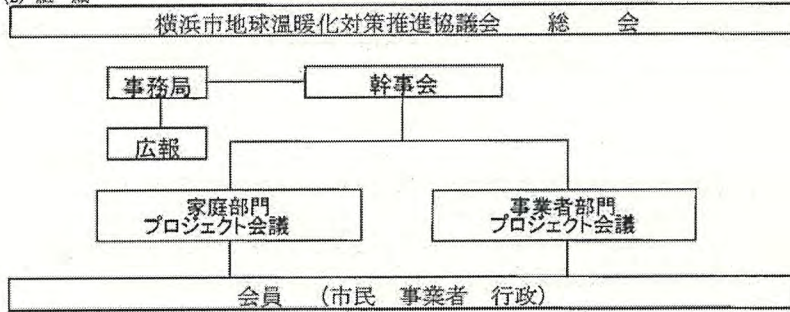
平成28年度事業報告

横浜市地球温暖化対策推進協議会は、「横浜市地球温暖化対策実行計画」に掲げた横浜市の温室効果ガス削減目標の達成等に向け、市民、事業者、行政が協働して地球温暖化対策の実践行動を促進し、地球温暖化防止に寄与することを目的とし、平成28年度は次の構成のもとに各種事業を実施しました。

1 構成

- (1) 会員数 120 (平成29年3月31日現在) (平成28年3月末:142)
 内 訳 個人会員:46 学生会員:1 事業者会員:59 団体会員:14

(2) 組織



総会	本来の最高決定機関であり、予算・決算・事業計画などの重要項目を審議する。
幹事会	総会議案、総会での議決事項の実施に関することなどを審議する。
プロジェクト会議	会員に呼びかけて、プロジェクトを立ち上げ各事業を実施する。

2 会議開催状況

(1) 総会

開催日	場 所	概 要
平成28年 5月20日(金) 13時30分～ 16時40分	横浜市情報文化 センターホール	第一部総会 第一号議案 27年度事業報告 第二号議案 27年度収支決算報告並びに監査報告 第三号議案 28年度事業計画(案) 第四号議案 28年度収支予算(案) 第五号議案 規約改定について 役員推薦(案)/第二部 講演会/電力自由化について

(2) 幹事会

回	開催日	場 所	概 要
1	平成28年 4月25日		1・挨拶 横浜市地球温暖化対策推進協議会会長 中原秀樹 2・横浜市温暖化対策統括本部調整課企画担当課長 澤木勉 3・幹事紹介 4・27年度決算報告(案) 5・28年度事業計画(案) 6・28年度予算(案) 7・役員改選について 8・規約改定について
2	平成28年 10月28日 (金) 9時30分～ 12時	横浜市市民活動 センター	9時30分から幹事会 11時からチョイモビ試乗会 1・挨拶 新体制になって 協議会会長/副会長 2・新幹事自己紹介 3・討議事項 今後の幹事会の運営について 4・報告事項 協定事業活動 5・横浜市から情報提供 6・今後のスケジュール 12月幹事会について
3	平成28年 12月22日 (木) 15時～17時	松村ビル別館 502号室	1・挨拶 横浜市地球温暖化対策推進協議会会長 松本真哉 横浜市温暖化対策統括本部調整課企画担当課長 澤木勉 2・28年度事業中間報告 各プロジェクト担当より 3・28年度決算中間報告 4・太陽光発電メガワットキャンペーン2020について 5・29年度横浜市温暖化対策推進協議会(協定事業)について 6・横浜市より情報提供・意見交換
4	平成29年 3月17日	関内中央ビル 6 階会議室	1・挨拶 横浜市地球温暖化対策推進協議会副会長 大川哲郎

(木) 10時～12時	横浜市温暖化対策統括本部調整課企画担当課長 澤木勉 2・横浜市の横浜市気候変動適応方針（案）の策定と市民意見募集 3・28年度事業報告（案） 4・28年度収支計算書（案） 5・29年度事業計画について（案） 6・29年度副会長の交代について
----------------	---

3 広報活動

これまでのホームページを活用しながら、リニューアルし、市民に当協議会の活動、イベントの案内等情報提供を実施した。タイムリーに告知するためにフェイスブックを開設した。ホームページ以外では、メール等で横浜市の情報等をお知らせした。

4 市との協定事業

(1) 区民まつり等のイベントでの28年度重点テーマの普及事業

横浜市内の各区が開催する区民まつり等に23日間参加し、家庭で出来る省エネ・節電等について情報提供し、一般家庭における二酸化炭素削減の取り組みの必要性を約7930名にPRした。

さらに各イベントにおいて、省エネチェックシートの配布、及びストップ温暖化！「やっています」「やります」宣言シートを配布し、自分のできる脱温暖化対策の行動実践の宣言に取り組んだ。

また、台所油田プロジェクトとも連携して廃食油回収を実施した。特に港南区で実施した、「こうなん子どもゆめワールド」においては、港南区役所、実行委員会の協力を得て、「まつり会場で使用する発電機」「ガスボンベ」「搬入・搬出の車の移動」で排出される二酸化炭素を算出し、港南区内で回収した家庭の廃食油を灯油と混ぜて重油の代わりに使用することで削減される二酸化炭素とカーボンオフセットする事業を実施しました。東京都市大学の協力を得て、パネルの作成、回収した廃食油を活用したキャンドル作りも実施。キャンドル作りに必要な電源は廃食油を活用した発電機を使った。

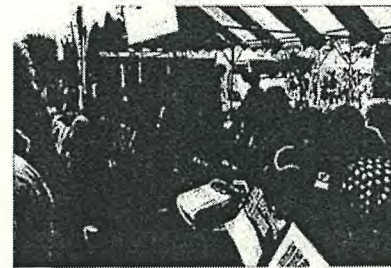
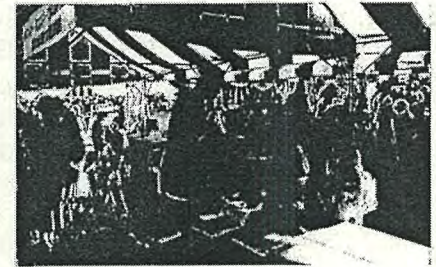
プロジェクト会議および事前打合せ

開催日	開催場所	主な討議内容
平成28年 5月31日	協議会事務所	実施事業である、開港祭・区民まつり（前半開催分）について確認。宣言シートの枚数確認を終了後に行う事の確認。事前説明会にもプロジェクトメンバーが出席の方針。区民まつり同時開催時の対応の確認。
平成29年 1月31日	協議会事務所	今年度の反省と次年度に向けた検討。事務処理を偏らないように手分けして行う。太陽光パネル設置事業者からの支援のお返しを検討する（PRなど）。

イベント開催（20ヶ所、23日間参加）

出展日	イベント名	開催場所	来場人数
5月15日	菊名地区センターまつり	菊名地区センター	100
5月18・29日	収穫祭	日本大通り	800
5月1・2日	開港祭（YESと共催）	臨港パーク	800
7月30・31日	南区民まつり	蒔田公園	270
9月25日	織子まつり	磯子区総合庁舎周辺	350
10月9日	神奈川区民祭り	反町公園	330

#	イベント名	開催場所	来場人数
	中区民祭りハローヨコハマ	横浜公演	380
10月15日	ほどがや区民まつり	県立保土ヶ谷公園	350
#	金沢まつりいきいきフェスタ	金沢海の公園	350
10月16日	旭ふれあい区民まつり	旭区役所	370
10月22日	ふるさと港北ふれあいまつり	新横浜公園	500
10月23日	瀬谷フェスティバル	旧上瀬谷通信施設のはらっぱ	400
11月3日	青葉区民まつり	青葉区総合庁舎周辺	130
#	都築区民まつり	センター北会場	380
#	東区民ふれあいまつり	和泉遊水地	520
11月5日	こうなん子どもゆめワールド	港南ふれあい公園	650
#	栄区民まつり	本郷中学校	350
11月6日	西区民まつり・くらしの広場	戸部公園	400
11月10日	栄と港南のみんなで「エコ活」	ダイエー港南台店前	250
11月14日	とつかエコフェスタ	戸塚区総合庁舎	250



(2) 風力発電とエネルギー関連施設等の見学会事業

横浜市が市民債で設置した風力発電所「ハマウィング」を広く市民にPRし、新エネルギーに対する市民の関心を喚起すると同時に、スマートウェルネス体感パビリオンの見学会を行った。さらに移動の車内では、協議会の紹介、横浜市の実施事業を紹介し、風力発電の説明はプロジェクトのメンバーが担い、塔内の説明は環境創造局の職員が実施した。

また会議室を借りて、家庭で出来る省エネミニ講座を実施し、今年度から始めた省エネチェックシートを活用して、家庭で取り組める情報を提供した。最後には「やっています」、「やります」宣言シートの記入等により、参加者の省エネ実践を促した。

また、見学会の前後にグループ会議を開催し、役割分担や実施の反省会を行い、見学者により良い説明の仕方等を検討した。

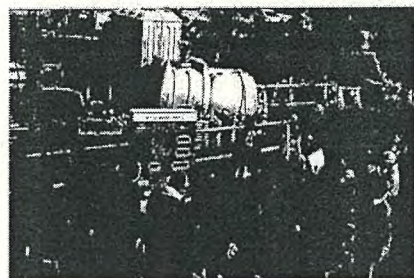
プロジェクト会議

開催日	場 所	概要
平成29年 1月24日	協議会事務所	見学者チーム分けの準備と確認。担当スタッフの役割分担、移動時の打ち合わせ

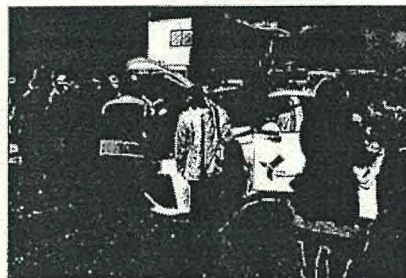
○風力発電とエネルギー関連施設等の見学会 (1回 約50人)

開催日	イベント名	協力	参加者数
平成29年 1月30日(月)	「風力発電」及び「NICEスマートウェルネス体感パビリオン」の見学と「省エネ講座」 1・瑞穂埠頭にある 環境都市横浜のシンボル 風車「ハマウィング」を見学しました。 2・「NICEスマートウェルネス体感パビリオン」は、横浜市と慶応大学の共同事業による実証棟「健康寿命の延伸」と「環境」が繋がった新しい住まいを、参加者自身が体感するテーマパークであり大変好評だった。また「省エネ講座」も実生活に、今すぐ役立つ貴重な講座でこれも有意義だった。	ナイス側	46 リーダー1 スタッフ6 参加

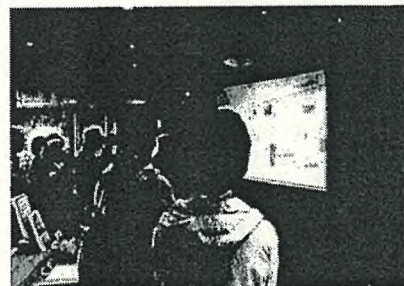
見学風景 (ハマウィングとスマートウェルネス体感パビリオン)



ハマウィング見学



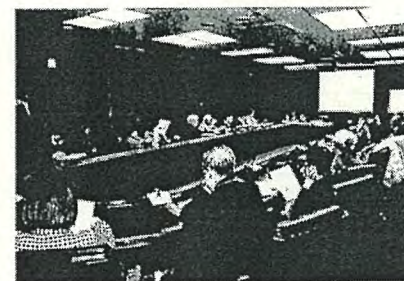
水素自動車はどうして走るのかな



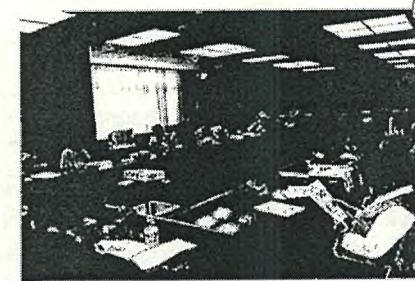
体感パビリオンの説明



断熱材の違いによって体感温度を測る



省エネミニ講座



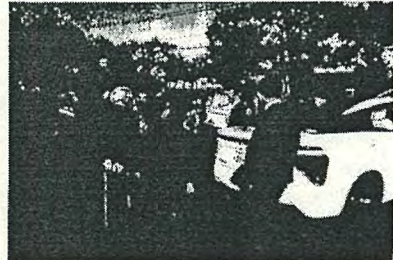
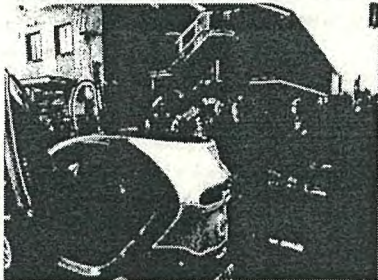
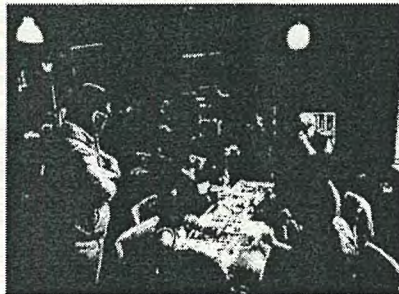
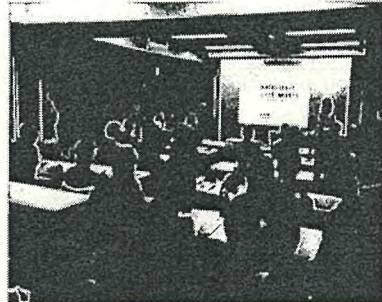
まるで国際会議室のよう

(3) エネルギーアクションプラン学習会&担い手育成 (7区10回 約360人)

7区役所や自治会・町内会と連携して、学習会を実施した。今年は特にIPCCリポートコミュニケーターの資料を使い温暖化の現状と予測を伝えるほか、また横浜市のエネルギーアクションプランの取組み、及び家庭で出来る省エネについて省エネチェックシートを活用して説明を実施した。また今後、温暖化が進行した際に対する適応策に力を入れる必要がある事を説明した。

開催主体・開催日	内容等	参加者
①港南区 5月19日	港南区地球温暖化対策ヨコハマ3R夢推進本部總會 IPCCリポート資料を活用した温暖化の現状と予測、港南区廃食用油回収の現状と温暖化に関する効果	60人
②磯子区 7月5日	磯子区団体 花みづき学習会 IPCCリポート資料を活用した温暖化の現状と予測、横浜市のエネルギー消費の現状、検針票の見方 他	40人
③芹が谷連合自治会 (港南区) 7月9日	自治会役員会 IPCCリポート資料を活用した温暖化の現状と予測、家庭でできること	50人
④保土ヶ谷区	工作教室と講座	30人

7月25日	IPCCレポート資料を活用した温暖化の現状と予測、横浜市のエネルギー消費の現状、家庭で出来る省エネ	
⑤野庭住宅連合自治会 (港南区)	自治会役員会	30人
8月2日	IPCCレポート資料を活用した温暖化の現状と予測、港南区廃食油回収の現状と温暖化に関する効果	
⑥港南区	夏休み環境学習講座	40人
8月6日	IPCCレポート資料を活用した温暖化の現状と予測と家庭でできること、廃食油を活用したキャンドルづくり	
⑦都筑区	牛久保公園愛護協会	30人
11月19日	協議会の取組・温暖化の現状と出来ること、廃食油調査報告、やっています・やります宣言シートの実施と説明 他	
⑧青葉区	「台風・ゲリラ暴雨を生きぬく講座とチョイモト試乗会」講師：渡辺渉氏	17人
11月26日	COP21後の温暖化対策の取組、東京都市大学での温暖化対策の取組他 共催：青葉区、協力：日産自動車	
⑨港北区	「温暖化豪雨水災害時代を生きぬくには」講師 岸由二氏	40人
12月3日	市の温暖化対策、エネルギーと食に触れる入口作り等を実施 共催：港北区、協力：港北図書館、菊名地区センター 他	
⑩戸塚区	「巨大台風・豪雨等を生きぬく講座と水素自動車試乗会」講師：渡辺渉氏	40人
1月28日	横浜市の温暖化対策と適応策、企業の取組等を実施 共催：男女共同参画センター横浜、後援：戸塚区 他	



(4) 省エネチェックシートの取組事業

28年度も省エネチェックシートの取組を実施したが、記入したチェックシートの回収は行わず配布のみを行い、家庭で活用してもらう事とした。

平成28年度省エネチェックシートの取組事業打ち合わせ	
	リーダー1名 スタッフ8名 2回
要 旨	<p>検討チームとの打ち合わせ</p> <p>1回 平成28年10月1日</p> <p>今年度は昨年度に引き続き、省エネチェックシートに取り組み、配布可能な場所で配布する事を確認。昨年のデータの集計者との意見交換を実施して、チェックシート記入後は回収せずに、家庭で出来る省エネの方法を伝えていく事に目的を置く事とした。</p> <p>また、冬だけではなく、年間通して使用できるシートとする事とした。</p> <p>LED電球に関しても1ページ作成することとし、データを持ち寄り掲載する文書の確認を実施した。</p> <p>また、昨年の省エネチェックシートの使用できる部分はそのまま生かして使用する事とした。</p> <p>2回 平成28年11月18日</p> <p>原版纳下を元に、省エネセンターや横浜市のデーターとのすり合わせを実施し、間違いが無いかの確認を実施した。また、横浜市から温暖化の部分についてもう少し説明するようにと意見が出て、1ページ目を修正する事とした。また、記述されている内容に沿って、スタッフや関係者が説明できるように学習会を実施した。</p>

平成28年度省エネチェックシートの取組事業	
	リーダー1名 8回
要 旨	<p>1回 9月29日</p> <p>作成者とあつて今回の趣旨等説明して作成を依頼。</p> <p>2回 10月11日</p> <p>他の組織で作成している、似たような資料を元に、今年度の作成と掲載内容について作成者と打ち合わせを実施。</p> <p>3回 11月9日</p> <p>LED電球のデーター等を持参して、LED電球の掲載ページ等について確認</p> <p>4回 12月15日</p> <p>作成者と共に、データー等の再確認を実施。</p> <p>5回 29年1月6日</p> <p>横浜市から修正のあつた温暖化に関する部分の修正と、横浜市等のデーターの再確認と掲載方法について打ち合わせを実施。</p> <p>6回 1月10日</p> <p>横浜信用金庫等に配布を依頼を実施した。</p> <p>7回 1月16日</p> <p>HPへの掲載についてHP担当者との打ち合わせを実施</p>

HPのリニューアルをしている途中で、リニューアルしたHPがアップすると同時に省エネチェックシートを掲載する事とした。
8回 1月25日
港南区の自治会の打ち合わせにて、自治会の役員会等での配布依頼と中身について説明を実施した。

(5) あかりキャンペーン事業

横浜市が実施するあかりプロジェクトと連動してさらに横浜市電気商業組合さんと連携して、LED電球の普及を目指したが、実際には市のプロジェクトとの連携が難しく、区民まつりにおいて、特に力を入れる区ではLED電球のコーナーを設けて、普及活動を実施した。

平成28年度あかりプロジェクト打ち合わせ	
	プロジェクトメンバー3名 あかりプロジェクト実施打ち合わせ3回
要 旨	<p>1・作成検討チームとの打ち合わせ</p> <p>1回 平成28年6月17日 今年度は区民まつり等に参加して、省エネチームと共にあかりキャンペーンの一貫として、LED電球の普及活動をする事とした。スタッフとともにどこの区民まつりで実施するかの打ち合わせを実施した。</p> <p>2回 28年7月9日 南区、神奈川区に持参するLED電球と白熱灯の対比装置のチェックと、LED電球の選び方、省エネチェックシート、横浜あかりプロジェクトのチラシを必要分用意した。</p> <p>3回 平成28年10月13日 これまで実施した区民まつりの反省をして、今後の実施区で持参するLED電球と白熱灯の対比装置のチェックと、LED電球の選び方、省エネチェックシート、横浜あかりプロジェクトのチラシを必要分の用意を実施。</p>

7月30・31日	南区民まつり	壽田公園
10月9日	神奈川区民祭り	反町公園
10月15日	金沢まつりいきいきフェスタ	金沢博の公園
10月16日	旭ふれあい区民まつり	旭区役所
10月22日	ふるさと港北ふれあいまつり	新横浜公園
10月23日	瀬谷フェスティバル	旧上瀬谷通信施設のはらっぱ
11月3日	泉区民ふれあいまつり	和泉遊水池
11月6日	西区民まつり・くらしの広場	戸部公園



(6) 市民発電の実施検討事業

調査検討を実施したが、FITの買い取り価格の低下等により、この時期からの市民発電への取り組みは難しいと判断。その後、横浜市エネルギーアクションプランにも掲げている、個人住宅等への太陽光発電の普及を検討。会員事業者の協力も得て、29年度実施に向けて検討を実施した。

平成28年度市民発電等アドバイス事業打ち合わせ	
	プロジェクトメンバー3名 5回
要 旨	<p>6月17日 1・岡山で市民発電を実施している団体のリーダーが東京の会議にて上京するのを機会に、協議会の事務所に寄っていただき、実際の取り組み、資金繰り等について聞き取りを実施した。また、調布、宝塚、東京の市民発電についてヒアリングを実施した。澤木課長が同席した。調布市については課長がヒアリングに伺った。</p> <p>7月22日 2・市民発電の可能性について、この間調査してきた各地の市民発電の取り組みや、採算性のキャッシュフローの資料を元に打ち合わせ実施。もし市民発電を実施するのであれば、資金として500,000円の拠出も了解という回答を得て、再度市民発電の可能性を検討した。</p> <p>10月28日 3・再度市民発電の可能性についてメンバーと検討。20年間の長期の対応、FITの買い取り価格が下がっている事を考え、市民発電の実施は困難との判断とする。しかし、太陽光発電の普及は推進していく事で合意し、会員の太陽光発電事業者にヒアリングをして、横浜市に提案する事とした。</p> <p>12月1日 4・ヒアリング結果を持ち寄り、横浜市に提案する内容を検討。課長から要望もあり、横浜市と太陽光発電事業者との意見交換を実施する事とした。 ★事業者へのヒアリングは別紙参照</p> <p>1月12日 5・鬼怒川の土手の決壊等災害時の太陽光発電パネルについて不安の声が聞かれるが、その実態について太陽光発電所ネットワークからヒアリングを実施。協議会として事業を実施するときどのように伝えるかの意見交換を実施した。</p>

市民発電等アドバイス事業実施報告書

太陽光発電事業者へのヒアリング リーダー1名 2回

27年度に引き続き、市民発電設置希望団体へのアドバイスを実施したが、自らの市民発電の設置は難しいと言う回答に至った。

その後、協議会自ら、または、協議会の有志で立ち上げた団体が市民発電を設置するのは可能なかの検討のために、事業者から現状や課題等のヒアリングを実施した。

その経過の中で、横浜市から事業者と連携した個人住宅の太陽光発電普及の可能性についての調査依頼があり、会員事業者にヒアリングを実施した。

ヒアリング項目 個人住宅の設置を推進するために、何が必要と考えるか

12月14日(水)	太陽住宅/日天	ヒアリングを実施
12月20日(火)	会津電業/ロフトシステム	ヒアリングを実施

(7) 道志村水源林取得100周年事業「横浜市民の水源地間伐体験・水源地散策」

プロジェクト会議

開催日	場所	概要
平成28年 11月7日	協議会事務所	今年度は、プロジェクトリーダーのネットワークを活用させていただき、また、横浜市温暖化対策統括本部のアドバイスも頂きながら、水道局との連携に重きを置く事の確認を実施した。
11月10日	協議会事務所	役割分担、スケジュール、参加人数、当日配布資料等の最終確認。

開催実績 道志水源林100周年事業 間伐体験・水源地散策

11月12日(日) 8:00~20:30

【一般参加者】41名

【実施概要】

横浜水道の道志水源林取得100年記念行事の一環として、「源流の森」の案内及び、間伐体験活動の取組を実施。行程は横浜水道の源、道志川の水源地「源流の森」見学：道志村民宿「水の元荘」で地元食材の昼食：間伐体験組と散策組と二組に分かれ行動：「道志の湯」に全員で移動し、道志村の間伐材利用のための集荷場「木の駅」と木質バイオマス「ボイラーシステムの見学後、その温泉入浴組と付近散策組と別れ秋の道志村を堪能した。全員バスで移動し、「道の駅どうし」で小憩、買い物をした。帰路は東名高速道路が、渋滞との情報があり相模原IC経由と変更したので関内到着はほぼ予定の時間で解散が出来た。

・横浜市が管理している水源林を買収した経緯、水源林の働きについて詳しい説明があった。なかでも「森の宝庫」として特許を取得した森林土壌による水の浄化・保水の実験装置は明快で大変興味深いものであった。

散策組ご案内役は都市大学の古川教授の「道志の森林と日本全国の森林」についてのお話を頂きながら道の駅どうし裏側のふれあい遊歩道を散策し、参加者から案内説明が大変良かったと大好評だった。

間伐組は3班に分かれ、それぞれ水源管理所職員のご指導の下間伐を体験した

間伐体験者は間伐をすることに多くの期待をしており、時間的余裕がなかったので1本しか切ることが出来ず物足りなかつたようであった

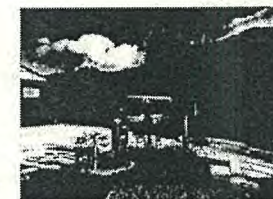
村内に豊富に存在する森林資源を活用した新エネルギーの導入を図るために、平成23年から「道志の湯」において「木質バイオマス」の活用事業の取り組みにより、地球温暖化防止に貢献するとともに地域の産業興しや雇用の創出につなげている取り組みを学んだ。

・往きは横浜水道の近代化のDVDの上映、自己紹介をお願いし小学生も元気に発言があり車中が和んだ。道志村のとし

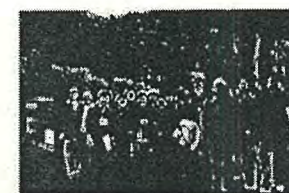
でのDVDビデオが参考になった。



源流の森の説明



間伐体験



道志村のふれあい遊歩道散策で森林活用森の説明



村の間伐材の集荷場「木の駅」と「エコボイラーの見学

5 自主事業

- (1) 中小企業省エネルギー化支援事業 事業者部門
開催に至らなかった。
- (2) 台所油田プロジェクト 家庭部門

栄区や港南区など10ヶ所の区民まつり等にて家庭の廃食油の回収コーナーを設置し、事前告知を通して持参頂き、市民の方々から廃食油を回収。前田町町内会では、定期的に回収を実施し、こうなん子どもゆめワールドではまつりで排出される二酸化炭素を廃食油の回収でカーボンオフセットを実施した。

28年度は、初めて港南区の港南台駅前ダイエー前でイベントを開催。事前回覧等で廃食油の回収を周知したこともあり、多数の市民が持参して、120Lの廃食油の回収が実施出来た。

また、栄区が自治会・町内会に呼びかけて廃食油回収の説明会を開催して下さったが、こちらの対応も悪く結果的に実施まで至らなかった。廃食油回収に関する調査（京都・関東）を行った。

1) 台所油田プロジェクト 回収実績 報告書

回収拠点	回収回数	回収量
イベントにて回収		
1 商店街活性化プロジェクトの一環として 【和田町商店街（保土ヶ谷区）】	年4回（6年目）	年間【250L】
2 【区民祭り】 1・こうなん子どもゆめワールド回収量 2・栄区区民まつり 3・ダイエー前 港南区こどもゆめワールドにて、廃食油を回収して二酸化炭素をカーボンオフセット	回収量350L（油持参者人数120名）回収量250L（油持参者人数95名）回収量120L（持参者49人） 港南台35人栄区10人野庭4人	各区合計【720L】
イベントにて 合計【970L】 970L×2.7kg-co2/L（重油排出係数・重油の代替え燃料として利用）=2619kgのco2削減となった		
自治会・町内会での回収		
1 芹が谷連合町内会	5か所	年間【357L】
2 野庭住宅連合町内会	4か所	年間【167L】
3 野庭団地	臨時回収	今回【60L】
4 【前田町・秋葉町自治会】	前田町町内会館にて毎月回収	年間【280L】
5 【泉区グリーンハイムB】	毎月回収	年間【22.2L】
6 【旭区三反田町内会（小高+川島）】	年4回	年間【270L】
7 【栄区桂台自治会】	年1回（どんと焼きにて6年目）	今回【80L】
8 【栄区拠点回収】	西岡邸、竹岡邸、他	年間【149L】
9 【瀬谷市常阿久和住宅】		年間【65L】
10 【戸塚区ランドメゾン東戸塚】		年間【270L】
11 【金沢区六浦東自治会】		年間【45L】
自治会町内会合計【1,765.2】1,765.2L×2.7kg-co2/L（重油排出係数・重油の代替え燃料に利用）=4,766co2削減 総合計【2,735.2L】2,735.2L×2.7kg-co2/L（重油排出係数・重油の代替え燃料に利用）=7,385 co2削減 植林換算527本 太陽光発電換算 3kW設置家庭の約5軒分 5軒設置にかかる金額600万円		
2) こうなんこどもゆめワールド報告 廃食油の回収（二酸化炭素排出量453kg-CO2、オフセットに必要な廃食油167L） ①パネル（カーボンオフセットを説明したもの）1枚、②新聞記事 ③アロマキャンドルづくり ■活動結果：		

- ・東京都市大学古川先生は廃食油持参者には廃食油をどのように棄てているかなどの聞き取りを行いながら、廃食油の回収とカーボンオフセットの意義を説明した。
- ・午前中は職人気質の忙しさに11時頃には2000を回収し、最終的には約3,500L、持参者は120人となり目標の1.8倍を回収することが出来た大きな成果を上げることが出来た。また、会場でドーナツを掲げていた団体からも依頼があり回収した。
- ・このように多くの人が廃食油を持参してくれるのは、医務所の取組もさることながら自治会町内会等の地道な活動がその源泉であろうと思われる。
- ・アロマキャンドルづくりは我ブースでは初めての体験であり短時間で作れることから、申込者が後を絶たず用意した数量は午後早々に一杯となった。
- ・出来るだけ多くの人に体験してもらう趣旨で、体験時間割を表示し時間を区切ってやるのが大事であると痛感した。



宣言シートに多くの人が協力



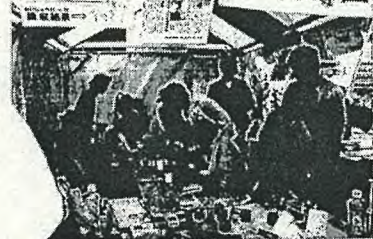
アロマキャンドルづくりの後は僕も私も省エネチェック



廃食油たくさんありがとう



予想を上回る速さで目標を達成



初めての試みアロマキャンドルづくりも大盛況



実行委員長、区長と記念撮影

- 3) 台所油田プロジェクト調査報告
栄谷商店の廃食油回収・活用について
1) 東京油田一回収と普及啓発

①1 か新年間 10,000 円 無料にしてもらえる可能性は無い

例—10000 円×500 か所=5000000 円

②イベント委託料 20000 円

20000 円×100 か所=2000000 円

③回収した油の販売

廃食油の BDF 化

①BDF 株式会社—BDF 化、飼料、海外に販売

比率 BDF 化が一番少ない

②機械の貸出可能—10KW、25kW

10kW の場合—50000 円+運搬費、クレーン等

BDF を満タンにして貸出—使用分を支払う—1L は 28 円?

回収した廃食油はもらう

★詳しくお聞きしようと思ったがうちも簡売なので、詳しくは講演に呼んでくれなければ話せないとの事—1 時間 40000 円程度

BDF の現状

①現在は BDF100%でも使用可能その代り機械壊れてもメーカー保証なし

②軽油に 5%混ぜるのは国も OK、機械故障の場合メーカー保証あり

③既に車が精密化され、コンピューター制御も多く、BDF100%は今後ほとんど使用できなくなる。

④京都市は BDF20%で実証実験中

京都の丹後の自然を守る会

①BDF を活用しているのは主に重機、農機具等

②レポインターナショナルに廃食油を販売—この会社の役員

③レポインターナショナルは全て BDF 化して海外にも販売—国内ではここだけ廃食油をそのまま使う機械の実証実験

④ヤマハエネルギー

25kW の発電機?

3 か所にて実証実験中

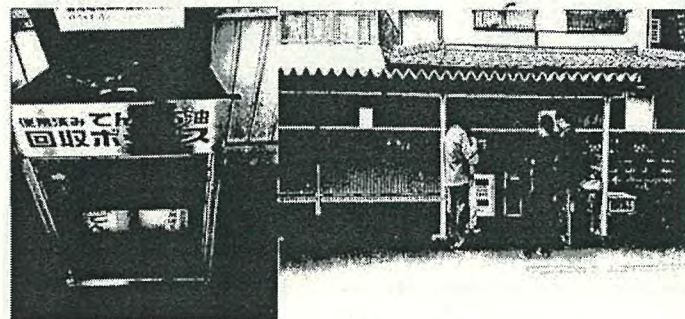
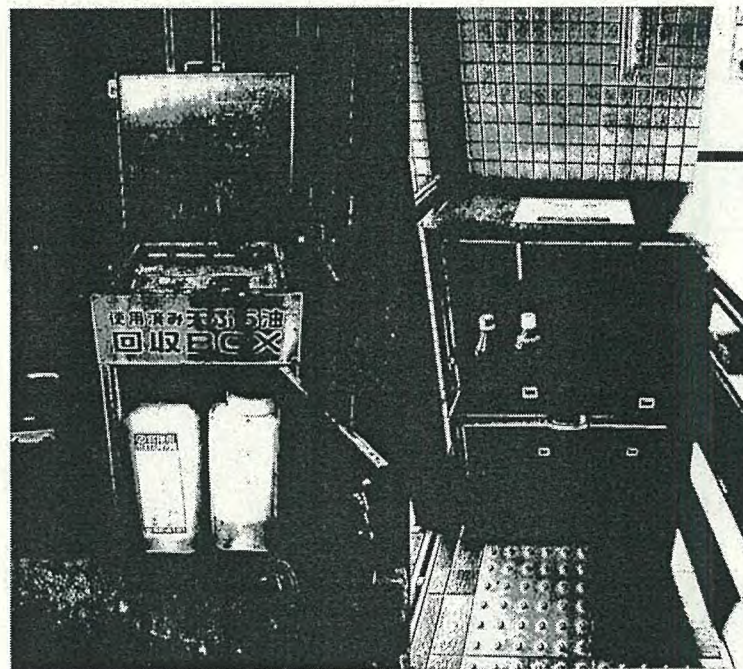
移動はできない

★ヤマハエネルギーと横浜市内での発電機の実証実験について横浜市も 交えて

検討を行い、実際に設置の候補地として廃食油の回収を実施している港南区のお湯を使う施設を幾つか調査・見学を行った。しかし結果として、横浜市の NOX、SOX の基準が環境省基準よりかなり低く、ヤンマー製発電機は横浜の市の基準をクリアする事ができず、実証実験は不可能という結論に至った。

4) 東京都市大学古川研究所と京都市・丹後の自然を守る会視察

(丹後半島回収風景) ①廃食油を直接ポリ容器に入れる②ペットボトルで回収



(3) 風力発電親子見学会

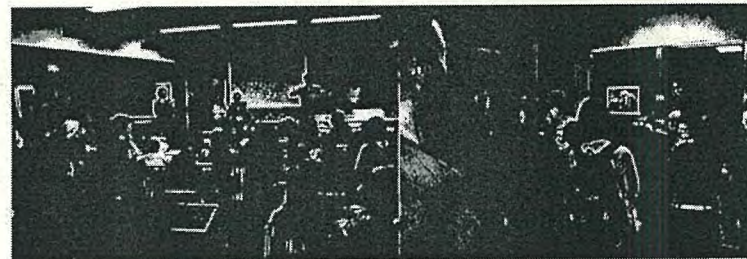
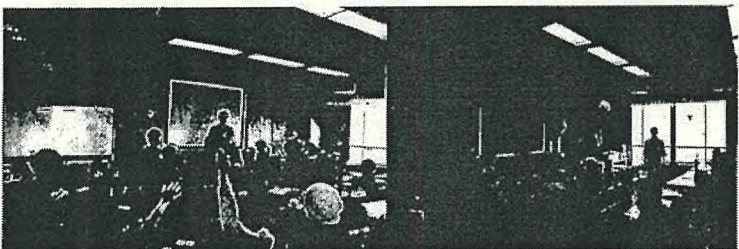
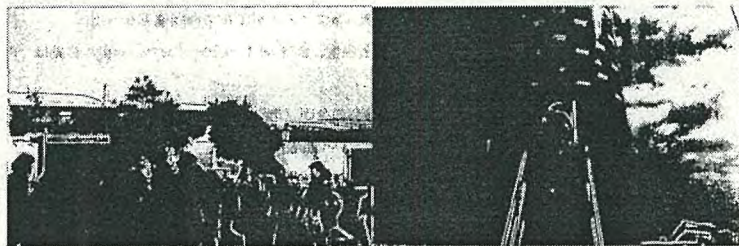
平成 28 年度第 2 回 風力発電及び 鶴見焼却工場・春の親子見学会

日時	平成 29 年 3 月 28 日 (火)
場所	風力発電(ハマウィング) 及び「資源循環局鶴見工場」
目的	「風力発電ハマウィング」及び鶴見焼却工場を見学。生活から出るゴミの処理のこと、資源保護のための分別の大切さ、焼却による発電のこと、最終処分場の延命などを親子で学ぶ。「省エネ講座」も開催し、温暖化防止のための、省エネや節電の大切さを伝え日常の暮らし方を啓発。

	<p>鶴見焼却工場では、子供達に分別体験ゲームや、水風船による焼却実験が用意された。 子供達も、楽しくかつ分かり易さに、大変興じて、体験で盛り上がった</p>
対象	一般市民の親子 54名
主催	主催：横浜市地球温暖化対策推進協議会
団体	共催：横浜市地球温暖化対策統括本部・横浜市資源循環公社

まとめ

27年度に引き続き、横浜市資源循環公社と協働で、春休みの親子見学会を実施した。
風力発電ハマウイングを見学し、その後、鶴見工場を見学する事で、3R夢とエネルギーと両方の視点から温暖化の事を知ってもらう事が出来たととても有意義な企画となった。
鶴見工場では、「温暖化、エネルギーに関する省エネ講座」と「ごみの分別体験」、「分別しない事でごみを燃やすとどのようになるか」の実験を行った。
鶴見工場はいかに楽しく理解をさせるかの工夫がなされていて、子ども達も楽しみながら学が事が出来た。特にごみピットの中での迫力のあるクレーンの動きに子どもたちは興奮気味だった。
温暖化を防ぐ大切さも知って貰う事ができ、ここからさらに行動につながる事と思われる。
また、風車から「水素」が出来るのかという質問も子供から出ていた。



(4) 地球温暖化対策地域協議会合同視察・研修会事業

平成23年12月に開催した「低炭素地域づくりサミット 2011 in いちかわ」において共同宣言に賛同した地球温暖化対策地域協議会の事務局が集い、協議会間連携を深めることを目的に毎年開催。
会場市については、各事務局での持ち回りで行っており、28年度は須賀賀市が会場市となる予定であったが、サミットから5年経過したことから、各地域協議会委員の合同視察会や意見交換会など、節目の年に相応しい催しの考えで、先進的な取り組みの事例が数多くある横浜市での開催となった。
参加者は、各協議会から役員、事務局あわせて10名程度、合計80名の予定となり、会場の移動は、市川市の大型バス2台(定席82)を使用した。
当協議会は①施設見学の決定・調整、②意見交換会の企画(市川市と相談)、会場確保を担当。
①の視察については、横浜市が担当、意見交換会については協議会が担当した。
また、各協議会との日程調整、資料の作成・送付などは市川市(幹事市)で実施した。

1) 「地球温暖化対策地域協議会合同視察研修会」開催概要

①開催日時平成28年8月29日(月) 10:00~16:00

②目的

平成23年12月に開催した「低炭素地域づくりサミット 2011 in いちかわ」において共同宣言に賛同した地球温暖化対策地域協議会の役員・事務局、及び神奈川県内の地球温暖化対策地域協議会等が集い、5周年を記念して協議会間の連携を深める

③参加者

葛飾区、熊谷市、さいたま市、千葉市、船橋市、横須賀市、横浜市(企画・運営協力)、市川市(事務局)及び神奈川県内の各協議会役員及び事務局あわせて80名程度を予定

④内容

第一部 視察(対応 横浜市)

10:0 横浜市役所に集合(市川市から市有バス2台)バスで視察場所まで移動

10:30~12:00 施設見学(掃りのバス移動含む)

場所: 大さん橋水素ステーション

水素ステーションは常設ではなく移動水素ステーションが来てMIRAIに充電する

第二部 基調講演・意見交換会(対応 横浜市地球温暖化対策推進協議会)

会場: 横浜市開港記念会館1階1号室

・13:00~13:10 挨拶

・13:10~13:40 基調講演: 環境省地球環境局地球温暖化対策課課長

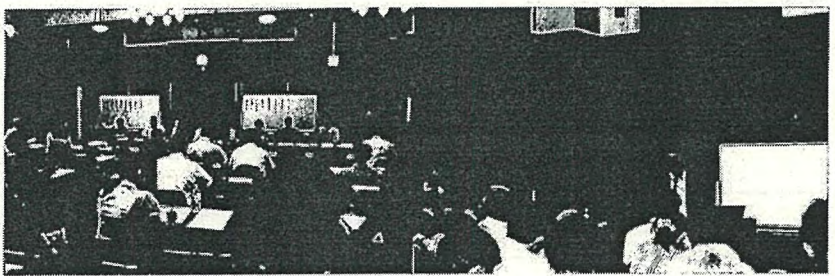
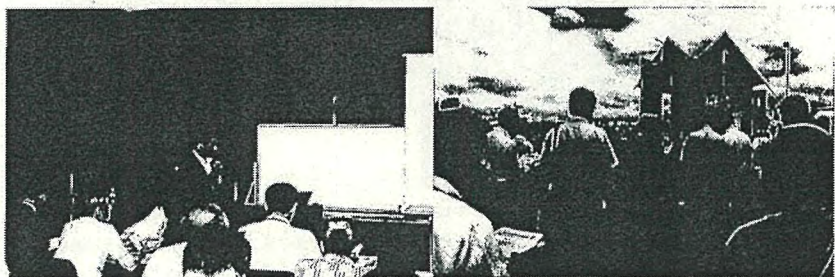
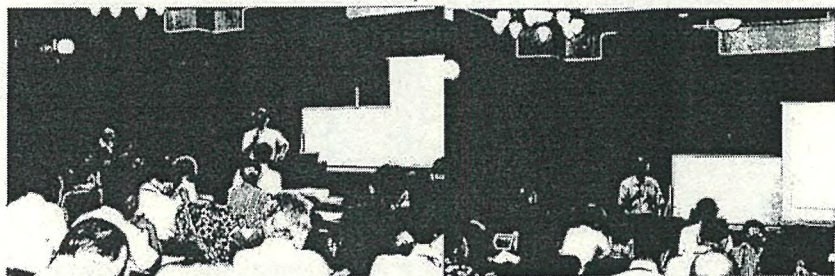
・13:40分~15:10 各協議会の活動報告と質疑応答

- ・15:10～15:15 休憩
- ・15:15～15:50 意見交換会
- ・15:55～16:00 最後の挨拶
- ・終了後、交流会を実施した

主催・共催

市川市地球温暖化対策推進協議会（主催）

横浜市地球温暖化対策推進協議会（企画・運営協力）



(5) 会員交流会

今年度は開催できなかつた。

第 25 回横浜環境活動賞 推薦用紙

被推薦者	横浜市地球温暖化対策推進協議会
推薦者	横浜市温暖化対策統括本部

推薦理由

横浜市地球温暖化対策推進協議会は、地球温暖化対策の推進に関する法律第 40 条に基づく地域協議会である。当協議会では、平成 18 年の設立以来、10 年間にわたり、地域において効果的な普及啓発を精力的に行ってきた。

啓発活動は、幅広い年齢層の市民を対象に、多種多様なイベントへの参加、学習会の実施、二酸化炭素削減のためのキャンペーン実施等々により、温暖化対策について地域・市民に対しての意識付けをはじめ、LED 電球の買い替えなどの実践活動により、温暖化対策に貢献している。

横浜市が全国平均に比べ、家庭部門からの二酸化炭素の排出が多いことを踏まえ、当協議会は家庭部門のエネルギー消費を削減する事を目標に、家庭生活により身近な区役所との連携に尽力した。

当初は各区が開催する区民まつりへの参加も、2～3区役所であったが、現在は 16 区役所の区民まつりに参加し、多くの市民への啓発活動を展開するまでに至った。

また、区民まつりをきっかけに、区役所と連携した学習会を 10 区役所で実施し、自治体との連携力をさらに高め、より効果的に市民に対して啓発活動を行うことができている。

さらに、学習会を通じて市民団体との連携へと繋がりを広げ、担い手育成を行うことで、温暖化対策の取り組みは持続可能なものへと展開している。

当協議会の連携は自治体や市民団体のほか、市内大学とも行っており、大学祭での啓発活動等、幅広い年齢層へ啓発することで、温暖化対策への意識づけを強める活動を実施した。

そのほか、二酸化炭素削減に向けた LED 電球への買い替え促進や太陽光発電の設置促進のキャンペーンを企業と連携し大規模に事業を展開した。

上記のように、当協議会の取り組みは、当協議会だけに留まらず、各団体等と連携することで、団体から市民、地域へと波及効果を高め、会員のネットワークを活かした、効果的な普及活動を実践し、温室効果ガスの排出抑制に大きく貢献したといえるため推薦する。